

令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）充当事業の検証について

No.	1	事業名 (計画年度)	赤城山広域連携 サイクルツーリズム (令和3年度～令和5年度)		担当課	観光課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	「ひと」の流れづくり				
	施策の基本的方向	スポーツや教育・文化による交流人口の拡大				
事業概要	<p>地域での観光消費を高め、新型コロナウイルスの影響により冷え込んだ地域経済の活性化を図るため、ウィズ・ポストコロナ時代に適合したコンテンツ重視の観光施策として自転車振興を推し進め、サイクルツーリズムの対象区域を拡大し、赤城周辺自治体（前橋市、桐生市、渋川市、みどり市）や民間事業者など地域の関係者が連携してナショナルサイクルルートの指定を目指したサイクルツーリズムに取り組む。</p> <p>当市としては、ルートとなっている赤城地区は、関越自動車道ICがあり、首都圏からのアクセスの良さが強みであるため、この取組を契機に赤城地区の観光資源をPRするとともに、交流人口を増やし市全体の観光振興を推進する。</p>					
令和5年度 総事業費 (渋川市支出分)	922,000円	令和5年度 総事業費 (4市合計支出分)	33,939,000円			
		交付金の種類 (補助率)	地方創生推進タイプ (1/2)			
主な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 サイクルオアシスの管理 2 スタンプラリー事業 <ul style="list-style-type: none"> ・電子スタンプラリー実施 3 赤城山e-Bikeプロジェクトイベント <ul style="list-style-type: none"> ・日本人向けサイクリングツアー ・インバウンド受入 ・視察受け入れ等 4 赤城山サイクルツーリズムプロモーション <ul style="list-style-type: none"> ・書籍への広告記事掲載 ・Web広告記事掲載 					

	5 赤城山広域周遊イベント ・サイクリング赤城2023（赤城山1周ライド、AKAGIサイクルスタンプラリー）	
重要業績評価指標（KPI）①	指標	観光入込客数
	目標値（R5）	715.4千人
	実績値（R5）	1,345千人 ※下記施設の入れ込み客数の合計 ・前橋市 ①あいのやまの湯 223,083人 ②道の駅ぐりーんふらわー牧場大胡 239,980人 ③富士見温泉見晴らしの湯ふれあい館 145,789人 ・桐生市 ①道の駅くろほね・やまびこ 103,409人 ・渋川市 ①道の駅こもち 416,543人 ②赤城自然園 67,141人 ③赤城第一直売所 92,150人 ・みどり市 ①小平の里 52,050人 ②まちなか交流館 5,311人
重要業績評価指標（KPI）②	指標	サイクリングガイドの養成人数
	目標値（R5）	18人
	実績値（R5）	13人（累計） ※前橋観光コンベンション協会主催のガイド養成プログラム研修を修了し、単独でガイドを催行することができる者と認定された者 ※令和5年度認定者は4人
重要業績評価指標（KPI）③	指標	多機能ポータルサイトアクセス数
	目標値（R5）	437,500回

	実績値 (R5)	725,237 回 ※サイト「赤城山をあそぼう! Akagi Trip」の閲覧数
重要業績評価指標 (KPI) ④	指標	e-Bike のレンタル台数 (台)
	目標値 (R5)	156 台
	実績値 (R5)	478 台 ※スポーツタイプの電動アシスト自転車の 2 箇所でのレンタル数合計 ①前橋駅 (両毛線) ②道の駅まえばし赤城
事業効果 ※選択肢 ① 地方創生に非常に効果的であった ② 地方創生に相当程度効果があった ③ 地方創生に効果があった ④ 地方創生に対して効果がなかった		②地方創生に相当程度効果があった
事業効果の 選択理由等	<p>令和 3 年度から 3 年にわたり、赤城山周辺自治体が連携して事業を実施することができ、赤城山広域観光振興において意義のある事業であった。</p> <p>重要業績評価指標 (KPI) においては、サイクリングガイド養成人数以外の指標で実績値が目標値を大きく上回る結果となり、自転車を活用することで、コロナ禍における観光需要を取り込むことができた。また、アンケート結果での参加者満足度、次回参加したい参加者の割合等を考慮すると、本事業全体として赤城山地域の自然環境、食文化、観光資源の周知と交流人口の増加という目的を果たすことができたと考えられる。</p> <p>当市としては、渋川会場スタートのサイクルイベント参加者に対し、市の観光パンフレットの配布や、キッチンカーの出店による赤城地区を代表するグルメを振る舞うおもてなし等を行い、イベント後も再訪してもらうよう市の観光資源を PR した。これにより、事業終了後も自転車等による市内各地の観光施設や飲食店などへの来訪が期待できるものとする。</p> <p>これらの状況をふまえ、本事業は「地方創生に相当程度効果があった」とした。</p>	

実績値を踏まえた事業の今後について	今後の方針 ※選択肢 ① 追加等更に発展させる ② 事業の見直し(改善) ③ 事業の継続 ④ 事業の中止 ⑤ 予定どおり事業終了	⑤予定どおり事業終了
	理由	<p>本事業では、赤城山周遊スタンプラリーやポタリングを通じて、赤城山周辺の新たな魅力発見やリピーターによる経済効果につながったほか、e-bikeの導入やサイクリングガイド育成による新たな観光体験も創出し、事業全体としては赤城山広域観光振興という目的を概ね達成できたと考えられる。</p> <p>一方で、赤城山周辺自治体連携の目玉事業であった「赤城山1周ライド」は、毎年参加定員を満たすことはできず、集客面での課題もあった。ヒルクライムなどのサイクルイベントが好評である一方で、思うように参加者を獲得できなかった要因について検証を行う必要があると考える。</p> <p>事業としては終了するが、今後は令和5年3月にオープンした「道の駅まえばし赤城」を拠点に、赤城山へのサイクリングツアーの実施や赤城山周辺エリアの観光情報の発信を引き続き行っていく。</p>
外部有識者からの評価	事業の評価	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○
	外部有識者からの意見	<p>本事業は令和5年度をもって終了となったが、赤城山という群馬県のシンボルでのイベントが産業や観光業にもたらす波及効果は大きい。</p> <p>複数自治体の連携による観光誘客は、今後も重要な取り組みになり得ると考えられるため、事業終了後も関係自治体間の連携を維持しながら、新たな事業を検討していく必要がある。</p>